

<b>Title</b>	賛美歌を歌い霊性を生み高めるために(上)
<b>Author(s)</b>	内藤, みち
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢,18(3) : 265-287
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=86">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=86</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 賛美歌を歌い靈性を生み高めるために（上）

日本語学習者の「主の祈り」の文語表現理解度

内 藤 み ち

Singing hymns to strengthen spirituality:  
Japanese language learners' ability to understand  
classical Japanese in "The Lord's Prayer"

Michi NAITO

It is difficult for foreign students learning Japanese as a second language to understand the meanings of the words of a hymn written in classical Japanese. Unlike native speakers of Japanese, it is easy for them to figure out the grammatical rules. Japanese language learners' understanding of classical Japanese in "The Lord's Prayer" was examined. Their understanding is not related to the length of their campus life nor their knowledge of the modern Japanese language. Grammatical rules are the key for them to understand words in a hymn.

---

Key words: spirituality, hymn, The Lord's Prayer, classical Japanese, vocabulary・grammatical rules

### 1 はじめに

「聖書を読む」「祈る」「賛美を歌う」という行為は神と私達との大切なコミュニケーション手段である。聖書を読むことは神の御業や御言葉を知るという私達が受け手となる行為であり、反対に、祈ることは私達から神へ向けての行為である。そして、賛美の歌を歌うことは、神と私達が共に受け手にも送り手にもなる行為である。従って、賛美歌を歌うことは、神と私達を結ぶ媒体としての重要な働きを持つ。

ミッションスクールにおいては「学生がクリスチャンであるかどうか」或いは「学生が信仰への導きを求めているかどうか」に関わらず共に信仰に触れながら数年間の学生生活を送る。大学生の場合、卒業後は遠からず皆社会の一員となり、様々な試練や困難にも直面していく。その時に、靈育の下に過ごした学校での数年間がその人を支え導く道標となり得る。賛美歌は私達の内なる靈性を支え高める力を持つ。学校礼拝で歌われる賛美歌は学生一人一人の人生と共にあり精神の糧とな

ろう。

賛美歌を魂に響かせ靈性を生じさせて歌うには、歌詞の一言一言をまず深く理解し自身の言葉としなければならない。歌詞が理解できていなければ心に共鳴させ靈性を生むことは難しい。学校礼拝においても、賛美歌を歌いながら学生が歌詞を理解し、その意味を魂に響かせ歌うことは大切である。賛美歌の歌詞は崇高で敬虔な内容であり、多く格調高い文語体<sup>(注1)</sup>で書かれている。日本語母語話者であっても、文語体の日本語理解が容易ではない場合がある。多くの留学生が共に学ぶキャンパスにおいては、文語の語彙及び文型規則を学ぶ機会が留学生に必要となる。本稿では、留学生が賛美歌の語彙や文型を容易に理解できるように導くために、まず留学生が文語をどの程度理解しているかを調査し、どのような条件の下で文語理解がより進むのかを考察する。

## 2 賛美歌

### 2 - 賛美歌

賛美の歌を一般に賛美歌という。広義としての賛美歌は信仰を歌う歌である。狭義はキリスト教の礼拝や集会等で歌われるキリスト教の神を賛美する歌であり、神の目的に対する信頼とともに神への応答を表現する。賛美歌の総数は約50万とされる。賛美歌に当たる英語のヒム(hymn)はギリシャ語のヒュムノス(hymnos)を語源に持ち、神々や英雄をたたえて歌う歌を意味している。讃美歌とは特定の賛美歌の歌集を指す。

### 2 - 時間的普遍性

#### 2 - i 聖書の中の賛美歌

証として歌を歌い継ぐようにと主がモーセに言われたと申命記31章16節以降に書かれている。同21節には「この歌が彼らの子孫の口にあって、彼らはそれを忘れないからである」とある。32章7節には「この言葉はあなたがたのいのちである」とモーセがイスラエルの民に語ったとある。長い年月を経ても言葉変わらずに神の御業を語り継がせ記憶に止めるために歌にして歌わせるという時間的普遍性を賛美歌は持つ。

#### 2 - ii 学校礼拝における賛美歌

70歳近くになって受洗した夫婦がいる。受洗前の2～3年間以外は教会生活を送ったことはなかったそうである。「昔覚えていた賛美歌と歌詞が違うのでよく戸惑う」と二人は言う。妻は中学校高等学校とミッションスクールに通っていた。夫は子供の頃から約20年間その父親が月に1度開いていた家庭集会において賛美歌を耳にしていた。二人は40年以上もの時を超えて賛美歌のメロディーや歌詞までも覚えていた。学校礼拝においても学生は幾度となく賛美歌の歌詞やメロディーを耳にし、卒業後数十年経ってもそれらを自然と覚えていると考えられる。

### 3 キリスト教と賛美歌

#### 3 キリスト教会

現在の諸教会の前身である「原始キリスト教」と、「カトリック教会」「正教会」「聖公会」「プロテスタント」がある。現在、世界で最も多いキリスト教の信徒数はカトリック教徒の約10億人で、21億人といわれる全キリスト教徒の略半数を占めている。次いでプロテスタントの約5億人で、全キリスト教信徒の約25%である。正教会系の東方正教会の約2億5千万人は全キリスト教信徒数の12%に当たる。その他の宗派を合わせた信徒数は約2億7千5百万人で全キリスト教信徒数の14%である。

#### 3 賛美歌の歴史

プロテスタント教会における賛美歌は、マルティン・ルター（Martin Luther 1483～1546年）から始まる。それまでは一般の参列者は礼拝の場において歌うことはなかった。礼拝堂において祭司や聖歌隊や会衆が声を揃えて一つの歌を斉唱し、精神的に共鳴し合い、一体感を持って神を仰ぎ見るためにルターは賛美歌を作った。ルターの賛美歌は「歌う説教」といわれ、作成当初は「教会の歌」と呼ばれていたが、後にコラール（Choral）と呼ばれるようになり、ドイツ・プロテスタント教会の会衆賛美歌となる。

#### 3 日本のキリスト教会

日本においては主にカトリック教会とプロテスタント教会と東方正教会にキリスト教は大別され、2004年の日本の総人口の約1%がキリスト教信徒である。そのうちカトリック教徒が約50万人、日本の全キリスト教徒の約60%と最も多い。次いでプロテスタントの約30万人で36%、そして東方正教会（日本ハリスト正教会）の約3万人、4%である。

#### 3 日本における賛美歌集

最初の日本語賛美歌となる「エスワレヲ愛シマス」と「ヨキ土地アリマス」（「Jesus loves me」と「There is a happy land」の日本語訳）が1872年の明治5年9月に横浜で開催された第一回宣教師協議会にて紹介された。そして、1874年の明治7年にそれらが日本で初めて賛美歌集として出版される。現在、日本のプロテスタント教会で使用されている主な賛美歌集は『讃美歌』『讃美歌第二編』『ともにうたおう』『讃美歌21』『聖歌』『新聖歌』等である。『讃美歌』『讃美歌第二編』『讃美歌21』は国内のプロテスタント信徒数の3分の1を有する国内最大の教団である日本基督教団によって作成された。『聖歌』『新聖歌』は福音派の教会において最も多く使用されている。『讃美歌』と『聖歌』には本質的な差異はなく同じ賛美歌も多く載せている。

## 4 礼拝に使用される賛美歌

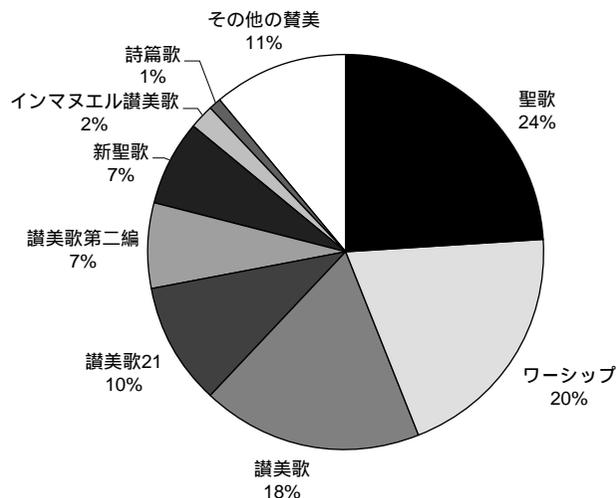
### 4 礼拝における賛美歌

神への賛美としての賛美歌が歌われ、そして、聖書朗読の後に説教を聞くにあたり聖書と説教とを結び聖霊を求める賛美歌、説教後にその内容に対する信徒の応答としての賛美歌が歌われる。John Wesley（1703～1791年）は会衆賛美歌の歌い方について「何よりも先ず、靈的に歌いなさい。歌っている全ての言葉において、神に目を向けなさい。あなた自身や他の人達をたのしませるのではなく、神に喜ばれることを目指しなさい。そうするために、あなたが歌っていることの意味についてしっかりと気を配りなさい。そして、あなたの心が音と一緒にどこかへ飛んで行ってしまわないように、常にあなたの心を神に捧げるように心がけなさい。」と述べている。

### 4 主日礼拝に使用されている賛美歌集

『2005日本基督教団年鑑』（日本基督教団 2005年）によると、日本の諸教会において主日礼拝に使用されている賛美歌集の種類（複数回答）で最も多いのはグラフ1にあるように『聖歌』で使用賛美歌集全体の42%であるが、そのうち『聖歌』のみを使用している教会と他の賛美歌集を併用している教会の割合は約同数である。また全体の35%を占める『ワーシップ』を使用しているうちの6割強が『聖歌』と併用し、4割弱が『讃美歌』及び『讃美歌第二編付』と併用している。『讃美歌』を使用している教会は全体の3割であるので、『ワーシップ』との併用を含めると、全体の4割が『讃美歌』を歌集として使用していることになる。更に、『讃美歌第二編付』をも含めると全体の半数余りが『讃美歌』を使用している。

（グラフ1）主日礼拝に使用されている賛美歌集



#### 4 聖学院大学におけるの礼拝

##### 4 i 聖学院大学におけるの礼拝回数

聖学院大学では、毎週火曜日～金曜日の4日間、1限目授業終了後10分の休み時間をおいて10時20分～10時50分の30分間礼拝がもたれている。礼拝は自由参列である。多くの学校行事の式典は礼拝形式で行われる。大学は春秋の2学期制であるが、各学期2回身近な教会へ通うこととなっている。

1996年度～2004年度の10年間、各年度90回～100回の礼拝がもたれている。

##### 4 ii 聖学院大学の礼拝におけるの使用賛美歌集

礼拝では通常は宗教センターによって選曲された頌栄1曲と、略全ての礼拝において異なる数多くの奨励者や説教者が選曲する賛美歌1曲が歌われる。その多くは『讃美歌』より選曲されている。1995年度～2004年度の10年間で最も多く歌われた頌栄は『讃美歌』545番の246回、次いで同546番の241回である。3番目に多く使用された頌栄は1番目2番目と100回程の差があり、同539番の153回、4番目に多く使用されたのは同541番で146回使用されている。次いで5番目は同543番で73回歌われている。一方、その10年間に奨励者及び説教者によって選ばれた賛美歌約1000曲を拾い出して歌集別に見てみると、『こどもさんびか』からは52番が1回歌われている。『聖歌』からは232番と604番が各1回で計2回、『ルター讃美歌』からは1曲が1回使用されている。『讃美歌第二編』からは100曲余りが使用されているが、15曲が1回、9曲が2回、5曲が3回、2曲が4回、2曲が5回使用され、6回（59番）と7回（25番）と10回（167番）と13回（1番）使用された『讃美歌第二編』の賛美歌は各1曲ずつであり、9回使用された賛美歌は2曲（57番と188番）である。聖学院大学の礼拝において使用されたその他の賛美歌は、すべて『讃美歌』からの選曲である。

##### 4 iii 聖学院大学の礼拝におけるの使用賛美歌

聖学院大学の礼拝において1995年度～2004年度の10年間に歌われた賛美歌の使用回数の多いものを以下の表1に記す。それら以外に、複数回使用された賛美歌で、10年間に2回使用された賛美歌は57曲、3回使用された賛美歌は30曲、4回使用された賛美歌は19曲、5回使用された賛美歌は21曲、6回使用された賛美歌は16曲であった。すなわち、使用回数が少ないほど曲数は多く、使用回数が多くなると曲数は少なくなっている。更に、表1にあるように使用回数が7回を超えると曲数は6曲以下と極端に少なくなる。表1の賛美歌だけで357回の礼拝で歌われていることとなり10年間の総礼拝数の4割近くとなる。従って、表1の礼拝において使用される回数が7回以上と多い賛美歌の歌詞から文語体の語彙や文型を拾い出すことで、賛美歌に使用される文語を日本語学習者が既に身に付けている日本語へ変換する大部分の規則が導き出せる。

賛美歌を歌い霊性を生み高めるために（上）

表1 学校礼拝において使用された賛美歌

使用回数	賛美歌曲番 (曲数)					
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
7回	187 「 <u>主よ</u> いのちの」	326 「ひかりに <u>あゆめよ</u> 」	333 「 <u>主よ</u> <u>われをば</u> 」	453 「 <u>きけやあいの</u> ことばを」	520 「 <u>しずけき</u> かわの きしべを」	25 「うたごえ 高らかに」
8回	272 「ナザレの <u>ふせやに</u> 」	308 「いのりは くちより」	310 「 <u>しずけき</u> いのりの」	355 「主をあおぎ みれば」	511 「 <u>みゆるし</u> <u>あらずば</u> 」	
9回	285 「 <u>主よ</u> <u>みてもて</u> 」	338 「 <u>主よ</u> おわりまで」	450 「 <u>わかきひの</u> みちを」	517 「 <u>われにこよと</u> 主はいま」	57 「あらしの あとに」	188 「 <u>きみの</u> たまものと」
10回	243 「ああ主の ひとみ」	502 「いとも <u>かしこし</u> 」	234 A 「むかし主 イエスの」	167 「 <u>われをも</u> <u>すくいし</u> 」		
11回	291 「主に <u>まかせよ</u> 」	313 「このよの つとめ」	354 「かいぬし <u>わが主よ</u> 」			
13回	294 「 <u>みめぐみ</u> <u>ゆたけき</u> 」	352 「 <u>あめなる</u> よろこび」	1 「 <u>こころをたかく</u> あげよう」			
14回	494 「わがゆく みち」					
15回	332 「主は いのちを」					
16回	121 「まぶねの なかに」	452 「ただしく きよく <u>あらまし</u> 」				
23回	270 「 <u>しんこうこそ</u> <u>たびじを</u> 」					
35回	312 「 <u>いつくしみ</u> <u>ふかき</u> 」					

上の表1をみると、『讃美歌』312番「いつくしみふかき」が10年間に35回聖学院大学の礼拝で歌われ最も使用回数が多い。次いで同270番「しんこうこそたびじを」の23回である。それら使用回数の多い2曲以外は、使用回数も16回以下と少ない。

表1の曲番に下線が引かれている賛美歌は『讃美歌21』にもある歌である。<sup>(注2)</sup>表1の賛美歌の曲名となる「」内に書かれている賛美歌の初行のみを見ても、二重下線の部分は文語であり留学生にとっては難解な日本語である。

## 5 文語体の習得

### 5 文語体の歌詞

賛美歌の歌詞には文語体のものが多い。聖学院大学の礼拝において多く歌われる『讃美歌』の歌詞は全編文語体で格調が高い。が、その為、日本語を母語としない留学生にとっては既知の日本語以外の新たな学習が必要となる。日本基督教教団が出版した最も新しい賛美歌である『讃美歌21』は「まえがき」の中で「古語そのままの難解な言葉や文語表現等は現代の人々、特に若い人々には理解することが難しい」と述べ、『讃美歌』の改訂版として『讃美歌21』を新たに出版した1つの理由としている。しかし、『讃美歌21』にも多くの文語体の歌詞があり留学生にとっては歌詞の意味を理解することは辞書をもってしても難しい。例えば、『讃美歌21』3番「扉を開きて」の曲名となっている初行にある「開きて」は留学生が知っている文型規則で作成された〔て形〕ではない。留学生の知る日本語文型の〔て形〕は「開いて」である。以下の表4に『讃美歌21』3番の全5節の歌詞を書き出し、文語体には二重下線、留学生にとって難易度の高い上級で学ぶであろう語彙や文型には一重の下線を引いた。

表2 『讃美歌21』3番「扉を開きて」の歌詞

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1, <u>扉を開きて</u> われを導き、<u>まことの光と慰め満つる</u> 神の家へと迎えた<u>まえ</u>や。<br/>                 2, <u>わが主よ</u>、<u>みまえにわれは来たりぬ</u>。われらのこころに主もまた<u>来たり</u>、われをきよめて、<br/>                 やどらせた<u>まえ</u>や。<br/>                 3, <u>おそれおののきて</u> <u>みまえに来たり</u>、こころもからだもすべてを<u>ささぐ</u>、祈りと歌を受け<br/>                 入れた<u>まえ</u>。<br/>                 4, <u>導く星なる主のみことば</u>をわれらに与えて<u>つねに慰め</u>、<u>弱きこころに力をたまえ</u>。<br/>                 5, <u>語りたまえ</u>、<u>主よ</u>、<u>祈るわれらに</u>。いのちのいずみは <u>ここに湧き出で</u>、<u>苦難の日にも慰めあふれん</u>。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

『讃美歌』の文語体の表現を歌いながら理解できれば、John Wesley が語る霊的に歌うことができよう。そのために、留学生が既に身に付けている日本語（現代語）習得同様に、『讃美歌』の文語を現代語に変換する規則を習得する必要がある。

### 5 容易な文語体習得

留学生が味わい深い文学作品や映画に触れる場合、方言を理解する必要が少なからずある。日本人が方言を学ぶ方法は5 - で述べる習得の三元論でいうと「公式的」だが、留学生の場合は「技術的」である。すなわち、日本語学習者が日本語を外国語として学んだと同じように変換規則を導入するだけでよい。その学習対象の方言を学ぶための「標準語から方言そして方言から標準語へ」の規則を応用して日本語学習者自身が発展的にその方言の語彙・文型を理解し方言で発話することも可能である。習得が「技術的」であるのは、日本語母語話者とは異なり、日本語学習者は学習タ

ーゲットの日本語を分解して文型規則を取り出し既知の日本語に適用させて新たな日本語表現を作り出す能力を標準語を学んだ際に既に身に付けているからである。方言や文語を学ぶことは日本人にとっては異種の日本語の導入となるが、留学生にとっては既知の語彙や文型を活用変化させる学習として意識され、日本語（標準語）学習の延長線上のものとなる。例えば、東京弁の[い形容詞]に当たる熊本弁の方言を学ぶ場合、留学生は既知の[い形容詞]の語尾「い」を除き「か」を加える規則を自ら導き出し、既知の語彙である「正しい」「美しい」「良い」に応用させて「正しか」「美しか」「良か」等の語彙を形作れるようになる。賛美歌に使用されている文語の[い形容詞]においては「か」に代えて「き」を加え「正しき」「美しき」「良き」とするという規則が日本語学習者には容易に導き出せる。更に、方言を学習する場合は、学習目的をその地に暮らすためとすることが多く、日本語学習者自身も方言を発話する必要がある。が、賛美歌等の文語を習得する場合は、学習目的をその理解とし、文語での演説や会話などといった日本語学習者による文語での発話を目的としない。文語体での記述も行うことはない。ゆえに、文語の学習は方言に比して大変容易である。

## 5 文型規則の単純化

現代語の日本語から方言や文語の文型規則を導き出していくと、文型規則が単純化され多くの場合例外として扱う規則が少なくなる。方言を例にして述べる。東京弁の[ない形]は、U動詞<sup>(注3)</sup>の字引形から語尾の母音「U」を除き、そこに「Aない」<sup>(注4)</sup>を加えて作られ、RU動詞<sup>(注5)</sup>の場合は語尾の「る」を除き「ない」を加えて作られる。[ない形]作成の唯一の例外は動詞「ある」から[ない形]を作成する場合で、U動詞からの[ない形]を作る文型規則は適用されず、「ある」の[ない形]は「ない」となる。だが、関西弁ではその例外の文型規則はなく、U動詞と同じ文型規則を当てはめて「あらない」とした後に語尾の「ない」を除きそこに「へん」を加えて「あらへん」とする。同様に、文語でも「あらない」から「あらず」が作成され、現代語では「せず」と例外となるが、文語では例外とはならない。更に、現代語では「いい」と「よい」という2語が使用されているが、「いけない」とは使われず語彙「いい」の使用には制限があり、それを例外の規則として学ぶ必要がある。それが、文語の場合はもともと「いい」という語彙は存在せずに「よい」のみが存在し語彙の一本化がなされている。現代語の方言規則をそこに加えて考えてみると、例えば熊本弁においても「いか」という語彙はなく「よか」のみが存在する。時間的及び空間的距離があるほど、つまり文語及び方言は共に現代語（標準語）の日本語と比べると例外規則が少なく単純化されている場合が多く、その習得は易しいと言える。

## 5 習得の「三元論」

文化とは習得され伝達された生き方全体であり、その生き方とは一定の型をもった生であり、共同体において学習の結果として習得される形式であるという。文化の習得をコミュニケーションの1つの形式とし、文化には3つの次元がありそれらは互いに交じり合っているもののその1つがそ

の習得方法の中心を成すという考えがある。

5 i 公式的(フォーマル)

日本語学習者が最初に現代語の日本語(標準語)を習得する場合がそれに当たる。一定の基準となる形式、日本語を習得する場合にはその文法規則等に合致させなければならない。それから外れると間違いとして訂正される。従って、学習は2元的な二者択一であり、誤りを矯正されるという二方交通のプロセスによって一定形式を身につける。

5 ii 非公式的(インフォーマル)

信仰への歩みがそれに当たる。何を手本として模倣するかは重要であるが無意識に行われる。何かを習得していることや、一定の形式或いは法則の存在をも意識されることは少ない。

5 iii 技術的(テクニカル)

公式的及び非公式的な学習をも含んでいるが、既に基礎的の日本語を身に付けている留学生が賛美歌にある文語体の語彙や文型規則を学ぶ場合がこれに当たる。高度に意識された習得という特徴があり、習得は一方交通でなされ、その場に教え手が居なくても学習は成立する。

## 6 「主の祈り」のアンケート

### 6 アンケート結果(回答1回目)

礼拝で毎回使用される「主の祈り」の文語表現の理解度を2005年10月に聖学院大学にて調査した。初・中・上級レベルの日本語能力をもつ留学生数名を含む、キリスト教概論科目の受講生約100名と、日本語能力中・上級レベルの留学生27名を対象に、平仮名で書かれた「主の祈り」を口語に書き換える方法で文語表現の理解度を調べた。<sup>(注6)</sup>それらの学生のうちの日本語能力が上級レベルの学生7名に対し「主の祈り」の文語表現等の語彙及び文型規則が以下のように書き込まれた「主の祈りの主要文型・語彙」のプリントを手渡し、「まします」「ら」「よ」「願わくは」「み」「あがめる」「たまえ」「きたる」「かて」「ごとく」「なんじ」「なればなり」の語句を2~3分掛けて口頭で簡単に説明した後に口語への書き換えを再度実施した。

「主の祈りの主要文型・語彙」

天（てん）  
（古語）まします＝いらっしゃる  
我（われ）  
等（ら）＝〔複数の意〕  
父（ちち）  
よ＝〔呼びかけの意〕  
願わくは＝望むことは  
御（み）  
名（な）  
崇める（あがめる）  
〔使役形〕  
（古語）〔語幹〕＋たまえ＝～てください。  
（注：語幹とは、〔ます形〕から「ます」を省いた形）  
国（くに）  
来る（きたる）  
心（こころ）  
〔連体修飾〕（他の表現では〔名詞句〕）の中の主格の『が』は『の』に置き換えられる。  
成る（なる）＝ある  
地（ち）  
成す（なす）  
日用（にちよう）  
糧（かて）  
今日（きょう）  
与える（あたえる）  
罪（つみ）  
犯す（おかす）  
者（もの）  
赦す（ゆるす）  
ごとく＝ように  
試み（こころみ）＝<sup>しれん</sup>試練  
〔ない形 - ない〕＋ず＝ないで  
悪（あく）  
救う（すくう）  
出す（だす）  
力（ちから）  
栄（さかえ）  
限りなく（かぎりなく）＝<sup>えいえん</sup>永遠に  
汝（なんじ）＝あなた  
物（もの）  
なればなり＝である

6 i 在学期間との関わり

回答者の学年は様々だが、27名中2005年の秋学期入学の在学期間半学期はの学生1名、1学期半は13名、3学期半は4名、5学期半は5名、そして最長の7学期半は4名であった。

在学期間が3年半と一番長い4年生4名の回答が記入されている表3をみると、全員国籍や母語が同じであるにも関わらず回答はまちまちで「主の祈り」の内容をどの程度理解しているかは極めて個人的であり在学年数との関わりは見られなかった。

表3 「主の祈り」のアンケート結果回答1回目（在学期間7学期半）

未記入部分は「……」で記す。以下同様。

ダイヤモンドマークはクリスチャン或いは教会生活のある学生を指す。以下同様。

全員中国からの留学生で母語も中国語である。

回答者	てんにましますわれらのちちよ	日本語能力
1	天より広い私たちの神様	上級
2	私の父の点数が増えてきた	中級
③	天の父様	中級
④	天は来私のちち	中級

回答者	ねがわくはみなをあげさせたまえ	日本語能力
1	願いがあれば願いを叶えさせる	上級
2	縁が分	中級
③	.....	中級
④	ねが私はみなをあげさせた前	中級

回答者	みくにをきたらせたまえ	日本語能力
1	.....	上級
2	未来をそろそろくる前に	中級
③	空から世間に来た	中級
④	.....	中級

回答者	みこころのてんになるごとくちにもなさせたまえ	日本語能力
1	真心の神様のようにになりなさい	上級
2	味心の点をなるとが口から出されるまえに	中級
③	天の神様になるごとをみんなに教える	中級
④	見心の天になる事口にもなさせたまえ	中級

回答者	われらのにちようのかてをきょうもあたえたまえ	日本語能力
1	今日も私たちの食事を与えてください。	上級
2	私の日曜日を今天ももらえるまえに	中級
③	私たちの食事を用意してくれた	中級
④	.....	中級

回答者2の「今天」は中国語で、日本語の「今日」に当たる語である。

賛美歌を歌い霊性を生み高めるために（上）

回答者	われらにつみをおかすものをわれらがゆるすごとくわれらのつみをもゆるしたまえ	日本語能力
1	私たちを許したように私たちのつみも許してください。	上級
2	私の罪を犯すものは自身自身としてゆるします	中級
③	わたしたちの罪をゆるしてくれる	中級
④	私に罪をおかすものを私がゆるすごとく私の罪をもゆるしたまえ	中級

回答者	われらをこころみにあわせずあくよりすくだしたまえ	日本語能力
1	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上級
2	私はまたやってないのにもう悪いことをやっちゃいました	中級
③	われらをあくからすくう	中級
④	心	中級

回答者	くにとちからとさかえとはかぎりなくなんじのものなればなり	日本語能力
1	世の中のすべてのものが貴方たちの物になる	上級
2	自分の国といえ、自誇だけではなく、国のために何かの役割を果たすこと	中級
③	信じればあらわれる	中級
④	国とちから	中級

6 ii 教会生活のとの関わり

表3の在学期間最長の7学期半の4名中で1と2はクリスチャンではなく、3と4はクリスチャンである。回答者4は約20年の教会生活を母国で送っているという。従って、教会生活の有無と理解度の関係はないと言える。回答者のうちで2番目に長い在学期間2年半の留学生の回答（表4）を見ると、主の祈りの最初の一文「天にまします我らの父よ」に関しては日本語能力による差異があらわれている。回答者4は「天」と「父」を漢字で書いていることからその2語は理解しているが、その他の語彙はオリジナルの文をそのまま書き写しているにすぎず理解されていないことがわかる。更に、回答者5が「まします」の敬語を理解していることからクリスチャンであることによる理解度の差もあらわれているようであるが、回答者5は自国においてもクリスチャン・ホームに育った上、大学卒業後に神学校への進学を考えていたほどであったことから、教会生活の有無と日本語での文内容の理解とは大きな繋がりはなく極めて個人的な差異であると考えられる。

表4 「主の祈り」のアンケート結果回答1回目（在学期間5学期半）

国籍は全員中国だが、回答者2と5の母語は朝鮮語である。

回答者	てんにましますわれらのちちよ	日本語能力
1	天にいる私たちの父よ	上級
2	天に住んでいるちちよ	上級
3	天 私の父よ 天国にいるのは私の父よ	中級
4	天にまします我の父よ	中級
◇	天国におられる私たちの父よ	上級

回答者	ねがわくはみなをあがめさせたまえ	日本語能力
1	皆の願いを叶えてくださった / 皆に希望を与えてくださった	上級
2	.....	上級
3	~は みんなを尊敬する	中級
4	.....	中級
◇	み名をあがめたまえ	上級

回答者5は、回答筆記中に『崇める』の意はわからないと語った。

回答者	みくにをきたらせたまえ	日本語能力
1	お国を築いてくださった	上級
2	.....	上級
3	三国を聞かせた 未来を聞かせた	中級
4	み国を来たらせたまえ	中級
◇	天国をきたらせたまえ くださった	上級

回答者4は、回答筆記中に『み』の意はわからないと語った。

回答者	みこころのてんになるごとくちにもなさせたまえ	日本語能力
1	心の天にもなる存在	上級
2	見心の天になる	上級
3	身心の点になる如く血にも無させた	中級
4	み心の天になるごとく	中級
◇	意が天国で実現されたように地でも実現させて	上級

回答者4は、回答筆記中に『ごとく』の意はわからないと語った。

回答者	われらのにちようのかてをきょうもあたえたまえ	日本語能力
1	私たちの日常生活をまもってください	上級
2	今日も幸せにしてください	上級
3	私たちの日常の家庭糧を今日ももらいました	中級
4	.....	中級
◇	私たちに毎日日食 今日も与えたまえ	上級

賛美歌を歌い靈性を生み高めるために（上）

回答者	われらに つみをおかすものをわれらがゆるすごとくわれらの つみをもゆるしたまえ	日本語能力
1	私たちに罪をおかす人をゆるしてと教えてくださった。 私たちの罪もゆるしてください	上級
2	我らの罪をゆるしてくれて	上級
3	私たちに罪を侵す物を私たちが許す如 私たちの罪 私たち他人の罪を許すごとく、私たちの罪を許す	中級
4	我に罪を を我が許すごとく 我の罪を	中級
◇	私たちに私たちがおかした罪を許したことに ~ 私達の罪もゆるしたまえ	上級

回答者	われらをこころみにあわせずあくよりすくだしたまえ	日本語能力
1	私たちを試みにあわせず、悪から救い出してください	上級
2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上級
3	私たちを試に合せず飽より	中級
4	我らを ~ に合せず悪よりすく~	中級
◇	悪から救ってくださいまえ	上級

回答者	くにとちからとさかえとはかぎりなくなんじのものなればなり	日本語能力
1	国と力と栄えにかぎりなく小さな存在でも自分なりにいればいい	上級
2	国と力と坂	上級
3	国と力と支とは限りなく馴の物なればなる 何でも限りなくあなたのものなら、なってください	中級
4	国とち	中級
◇	国と権力と栄光限りなく永遠につづく	上級

6 iii 語彙・文脈からの推測

表4の回答者4はオリジナルの文をそのまま書き写しているため文内容を理解しているように見えるが実際は理解し得ていない。

回答者27名全員の回答を見てみると、外国語を使用する時に誰でもが行う「語彙・文脈からの推測」が多く行われている。表4の回答者3の「我らに罪を犯す者を我らが赦す如く我らの罪をも赦したまえ」の文内容を理解した過程を見ると、平仮名で書かれているオリジナルの文章を漢字に直した後にその文章から推測した事柄を日本語として記している。すなわち、『私たちに罪を侵す物を、私たちが許す如く 私たちの罪』という文章に一旦書き出した後に、キリスト教という宗教から導き出される内容として「他人の罪を許しごとく、私たちの罪を許す」という文を記入している。

表5をみると、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」の語彙を理解している回答者は多い。が、文語「たまえ」の文型規則を知らずに訳しているために全く異なった文内容の理解となっている。一方、語彙力が乏しい場合も本来の意味とは全く異なり神学的に誤った解釈となっている。その誤った解釈がキリスト教の教えの根本的な事柄さえも歪めてしまうことも大いにあり得る。表6は在学

約1か月のクリスチャンでない留学生の「主の祈り」の口語訳である。加えて、「主の祈り」の内容を大きく違えた訳を表7に記す。

表5 「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」の全回答1回目

在学期間	われらのにちようのかてをきょうもあたえたまえ	備考
4	今日も私たちの食事を与えてください。	
4	私の日曜日を今天ももらえるまゝに	
④	私たちの食事を用意してくれた	
④	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3	私たちの日常生活をまもってくださった	
3	今日も幸せにしてくれて	
3	私たちの日常の家庭糧を今日ももらいました	
3	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
④	私たちに毎日日食 今日も与えたまえ	
2	私たちの日常の食べものは主から賜った	
2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	全文に記入無し
	私達に一日のたべものをあたえて	
1	毎日の飲食を贈てくれます	
1	我らの日用のかてを今日も与えたまえ	書き写し
1	私たちの日常生活食品を今日あげました	
1	私たちの日常の食糧を今日も与え、イエスに感謝する気持	
1	私たちの日常の使い物今日も与えてくれた	
1	我らの日曜 今日も与えたまえ	書き写し
1	われわれに自由をあたえてください	
1	我らの日用の糧を今日も与えてください	国にて母語で多く耳にした内容を記入
1	われらの日用食品を今日もくださいました かと = 食糧	
1	神のおかげで家族が幸せに生活します	在学約1か月
1	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	私達の日常の食品もあたえます	
	現代、私たちに食料をあたえて	
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2文のみ記入、それらは全て正解

印の回答者はクリスチャンかどうか不明であった学生を指す。

表6 「主の祈り」のアンケート結果回答1回目（在学期間約1か月）

私たち人間は天の子供です。願いをしなくても神に助けてもらえます。・・・・・・・・。口ではなさなくても身心が偉くなれます。神のおかげで家族が幸せに生活します。仇を返してはいけません。会わなくても心が結びつけられてます。国籍に関係なくて、同じ信念を持てば一緒になれます。

表7 大きく内容の異なる回答1回目

てんにましますわれらのちちよ
私の父の点数が増えてきた
天国から来たイエスよ
天は私達の神です
天は私の父だ
天は私たちのちち親として
天に導く我らの父よ
天より広い私たちの神様
天に勝します我らの父よ
ねがわくはみなをあがめさせたまえ
縁が分
ねが私はみなをあがめさせた前
願いがあれば願いを叶えさせる
皆の願いを叶えてくださった / 皆に希望を与えてくださった
願い通りさせました
みくにをきたらせたまえ
天国へいきなさい
三国を聞かせた
未来をそろそろくる前に
我が国に来た（イエス）
私たちの国に来ました
自分の国
私の所に来なさい
神のいらっしゃる国に来させました
身国を来たらせて下さい
みこころのてんになるごとくちにもなさせたまえ
私たちの内心の世界が見える主はミスを起こす前に教えてください
身心の点になる如く血にも無させた
味心の点をなることが口から出される前に成させた
天の神様になることをみんなに教える
見心の天になる事口にもなさせたまえ
私たちの心を神様はわかります
見心の天になるごとく口にも成させたまえ 人の心を見抜ける天
見心の天に
真心の神様のようにになりなさい
命をすてても神さまにしたがってください
心の天にもなる存在

われらのにちようのかてをきょうもあたえたまえ
私の日曜日を今天ももらえるまえに
我らの日曜 今日も与えたまえ
われわれに自由をあたえてください
私たちの日常生活をまもってください

「今天」は中国語で、日本語の「今日」に当たる語である。

われらにつみをおかすものをわれらがゆるすごとくわれらのつみをもゆるしたまえ 特になし
-----------------------------------------------

われらをこころみにあわせずあくよりすくいだしたまえ
私たちは悪魔になるまえに教悔してください
私たちを試に合せず飽より
私はまだやってないのにもう悪いことをやりました
自分の心と合わせずイエスが言うとおりにす
助け合えるように
我らを心見に現せず悪より

くにとちからとさかえとはかぎりなくなんじのものなればなり
国籍を問わずみんな兄弟で平和互い(に)助けようと思う
自分の国といえ、自誇だけではなく、国のために何かの役割を果すこと
信じればあられる
国、力、関係なく何処にも神様がいらっしゃいます
国に関わらず、共有のものになりなさい
国と力と栄えにかぎりなく 小さな存在でも自分なりにいれたい

文末の「たまえ」を正しく訳せたのは27名中3名であった。3名とも日本語能力が極めて高いクリスチャンではない留学生である。その3名にどこでどのように「たまえ」の現代語の意味を知ったのかを口頭で尋ねたところ、何となく「～ください」だと思ったと2名が答えた。つまり、文中の幾つかの語彙を拾い出した後にそれらを文章化する際に「～ください」と推測し訳したという。そのうちの1名は全文8文のうちの6文を訳したが「たまえ」と文末にある文章はすべて「～ください」と正しく訳していたことからみると、「たまえ」という語彙について学ぶ機会を得てはいなかったが文脈から推測した語彙の意味を構造だてて理解し自らその文語体を習得したと言える。もう1名は「たまえ」が文末にある全6文のうち2文に「～ください」を使用し他の2文には言い切りの文末表現と命令形を使用し、残りの2文の訳は未記入であった。ゆえに、「たまえ」を正しく訳せた2文は偶然正しく訳されたものとなる。これら2名以外の文語「たまえ」を正しく訳した1名は、韓国からの留学生であり、自国で生活している際に何度となく耳にした母語である韓国語による「主の祈り」の理解をそのまま日本語に置き換えたことによって「たまえ」を正しく訳せたという。日常生活の中で多くのキリスト教の伝道活動に触れることの多い韓国ならではのことと言えるであろう。

6 iv 日本語能力との関わり

「主の祈り」のアンケートにおいては、高い日本語能力をもつ回答者は文中の語彙を数多く理解し、その結果文内容の推測もより正確になされている。が、本稿で取り上げた「主の祈り」及び賛美歌に使用されている文語表現の理解は、留学生が日常一般に使用している辞書を利用しても困難である。日本語能力が高い低いに関わらず文語体の文章を理解するのは独力では難しい。個々人の日本語能力の差がありつつも各々がより容易に賛美歌の歌詞を歌いながら理解し靈性を高めるためには、その理解に必要な文語体の文型規則を身に付けていく必要がある。

6 文型・語彙導入後の理解度

表8は、日本語能力の高い留学生6名に文語体の語彙や文型規則を2～3分説明し、その説明が記載されているプリントを配付し1回目と同じ作業を行った結果である。

表8 「主の祈り」のアンケート結果回答2回目（日本語上級レベル）

回答者1は韓国語母語話者 2と5は中国国籍を有する朝鮮語母語話者 3と4と6は中国語母語話者である。

回答者	てんにましますわれらのちちよ	在学期間
1	1回目 天に勝します我らの父よ 2回目 天にいらっしゃる我等の父よ。	1
2	1回目 天にいらっしゃる父、まします いらっしゃる 2回目 天にいらっしゃるわれらの父！	1
3	1回目 天にいる私たちの父よ 2回目 天にいらっしゃる私たちの父よ。	1
4	1回目 天により神聖の父よ 2回目 空にいらっしゃるわらわれの父よ。	1
◇	1回目 天国におられる私たちの父よ 2回目 天にいらっしゃる我らの父よ	3
6	1回目 天より広い私たちの神様 2回目 天にいらっしゃる私たちの父よ。	4

回答者	ねがわくはみなをあげめさせたまえ	在学期間
1	1回目 願わくは皆を（ ? ）させてください。 2回目 願うことは御名を崇めさせて下さい	1
2	1回目 願いどおりさせました。 みな 神の名前 2回目 .....	1
3	1回目 皆の願いを叶えてくださった / 皆に希望を与えてくださった 2回目 望むことは御名を崇めさせてください。	1
4	1回目 ..... 2回目 お（名）前を尊ばれるよう（に）と望んでいます。	1
◇	1回目 み名をあげめたまえ 2回目 望むことは御名を崇めさせてください	3
6	1回目 願いがあれば願いを叶えさせる。 2回目 .....	4

回答者5は「崇める」の意は知らずに1回目はオリジナルの文を書き写した。

回答者	みくにをきたらせたまえ	在学期間
1	1回目	1
	2回目	
2	1回目	1
	2回目	
3	1回目	1
	2回目	
4	1回目	1
	2回目	
◇	1回目	3
	2回目	
6	1回目	4
	2回目	

回答者	みこころのてんになるごとくちにもなさせたまえ	在学期間
1	1回目	1
	2回目	
2	1回目	1
	2回目	
3	1回目	1
	2回目	
4	1回目	1
	2回目	
◇	1回目	3
	2回目	
6	1回目	4
	2回目	

回答者	われらのにちようのかてをきょうもあたえたまえ	在学期間
1	1回目	1
	2回目	
2	1回目	1
	2回目	
3	1回目	1
	2回目	
4	1回目	1
	2回目	
◇	1回目	3
	2回目	
6	1回目	4
	2回目	

回答者1の2回目の回答「それら」は表記ミス。「われら」

賛美歌を歌い霊性を生み高めるために（上）

回答者	われらにつみをおかすものをわれらがゆるすごとくわれらのつみをもゆるしたまえ	在学期間
1	1 回目	1
	2 回目	
2	1 回目	1
	2 回目	
3	1 回目	1
	2 回目	
4	1 回目	1
	2 回目	
◇	1 回目	3
	2 回目	
6	1 回目	4
	2 回目	

回答者	われらをこころみにあわせずあくよりすくいだしたまえ	在学期間
1	1 回目	1
	2 回目	
2	1 回目	1
	2 回目	
3	1 回目	1
	2 回目	
4	1 回目	1
	2 回目	
◇	1 回目	3
	2 回目	
6	1 回目	4
	2 回目	

回答者	くにとちからとさかえとはかぎりなくなんじのものなればなり	在学期間
1	1 回目	1
	2 回目	
2	1 回目	1
	2 回目	
3	1 回目	1
	2 回目	
4	1 回目	1
	2 回目	
◇	1 回目	3
	2 回目	
6	1 回目	4
	2 回目	

表8の日本語能力が高い留学生の2回目の口語訳を見ると、2～3の表現がほんの僅かにぼんやりとしている回答者もいるが、在学期間3年半の回答者6のみが理解が3文誤った以外、全員が全8文中6文を正しく理解し訳している。「主の祈り」の「願わくは御名を崇めさせたまえ」と「御国を来たせたまえ」の文については、「何を意味しているかわからない」等の理由から回答を記入しなかったり文法的な文章を記入したにも関わらず文意に自信がないまま口語訳を記入した学生が数名いた。これは日本語の問題ではなく、「主の祈り」の神学的な意味の把握ができていないことが問題であることを表わしている。

表9は、日本語能力レベル中級のクリスチャンではない中国からの留学生の2回目の回答結果である。

表9 「主の祈り」のアンケート結果回答2回目（日本語中級レベル）

1 回 目	天にまします私の父よ。・・・・・・・・・・。 み国を来たせたまえ。 み心の天になるごとく・・・・・・・・・・。 我らに罪を・・・・・・・・・・を我が許すごとく私の罪を・・・・・・・・。 我らを・・・・・・・・合わせず悪よりすく・・・・・・・・。 国とち・・・・・・・・。
2 回 目	天にいらっしゃる我等の父よ 望むことは御名前をあげさせてください。 お国をきてください。 お心は天にあるように地にもなってください。 我等の日用の糧を今日も与えてください。 我等に罪を赦すものを我等が許すように我等の罪をも許してください。我等を試練に合わせなくて、悪から救ってください。 国と力と栄えは永遠にはならないあなたである。

表9をみると、1回目の回答は記入している場合でもただ書き写しただけであって、記入後に口頭で「み（御）」や「ごとく」等の意を質問したが知っている語はなく、「主の祈り」の内容はほとんど理解していない。文語体の語彙や文型を導入した後においても文章内容を把握していない部分が見られる。が、ほぼ全文の内容を理解していなかった1回目と比較してみると2回目の記入時には約8割文意を把握している。

「主の祈り」の2回目の調査結果から、文語体の日本語が理解できても神学的に理解が進まない場合もあるが、日本語能力の差に関わらず数分口頭で語彙及び文型説明を受けることによって、全員が文語表現を含めた「主の祈り」の8～9割の内容の理解ができるようになった。そして、それは習得の三元論でいう「技術的な一方通行の習得」によるものである。日本の大学で学ぶに足りる日本語を既に身に付けている留学生であるからこそ、新しい文語体の学習は公式的な学習ではなく、簡単な説明は受けたものの独力で正しい文意を把握できるほどに文語体の日本語習得は容易になされた。

## 7 おわりに

「主の祈り」のアンケート結果をみると、文章の理解度は日本語能力によるところがあるように見られるが、それは推測へ繋げるための既知の語彙数や文型数の異なりが存在するというだけのこと

## 賛美歌を歌い靈性を生み高めるために（上）

であると言える。在学期間は理解度に関してはほとんど関連はない。必修となっているキリスト教概論等々のキリスト教についての科目を履修した留学生であっても文語体の「主の祈り」の十分な理解はなされていなかった。文語表現が理解できないままではそれらの授業においても多くの事柄を学び取るには困難があると同時に、学校礼拝においても賛美歌の歌詞を心に響かせて歌うことはできない。今回、文語表現についての簡単な説明を数分受けるだけで「主の祈り」の内容の8割をも理解できるようになったことから、留学生が信仰について深く学べるようにそのツールとしての文語体の語彙・文型規則を導入する必要がある。

聖書や讃美歌にある語句の神学的理解も言葉の理解を超えて大変重要であるということをも2回目のアンケート結果は表わしている。文法的には文意を理解できてもその文がどのようなことを意としているのかわからないという部分が「主の祈り」の文章においても2文ほどあった。

大学という4年間の在学期間の中に授業や礼拝を通して神学の知識は深めることができる。そして、それには文語体の日本語の習得は不可欠である。留学生が公式的に日本語を習得し技術的に文語を学び取れば、クリスチャンスクールのキャンパスライフを通して非公式的に神学や信仰の学びが容易になされるであろう。

賛美歌の中から拾い出した「繰り返し使用される文語の語彙及び文型規則」そして「口語体への変換規則」は次稿に提示することとする。

### 注

- (1) 本稿でいう「現代語」とは日本語学習者が日本語を学習するときに学ぶ「現代語（標準語）」や「口語」を指す。その対照にあるのは「文語」或いは「古語」である。文語と現代語は全く別個の日本語ではなく、文語の一部は現代語にも使用されている。文型規則が異なる場合や表出する意味が異なる場合などお互いにさまざまに入り組んでいる部分がある。
- (2) 『讃美歌』と『讃美歌21』では、同じ賛美歌であっても歌詞が同じとは限らない。
- (3) U動詞は、「五段動詞」「子音語幹動詞」「強変化動詞」「類動詞」等ともいわれる。
- (4) U動詞の語尾が「う」の場合は「WA ない」を加える。
- (5) RU動詞は、「一段動詞」「母音語幹動詞」「弱変化動詞」「類動詞」等ともいわれる。
- (6) 日本人学生と日本語レベルが中級に達していない留学生の回答は除いて分析した。日本語能力レベルが中級未満の留学生の場合、「主の祈り」は理解できてもその内容を口語で筆記する日本語能力を有していないことも考えられ、正確な理解度がはかれなため除いた。

### 参考文献

- 「『讃美歌21』について 大学・短大はどのように」『キリスト教学校教育』1999年2月15日  
泉治典「疑問感じるリタジーの強調」『福音と世界』1997年6月号 pp.26 - 27  
大塚野百合『賛美歌・唱歌ものがたり』創元社 2002  
大塚野百合『賛美歌・聖歌ものがたり』創元社 1995  
大塚野百合「たましいに響く歌を」『福音と世界』1997年6月号 pp.19 - 22  
太田聡「礼拝奏楽者の立場から」『福音と世界』1997年6月号 pp.23 - 25  
唐津東流「礼拝における賛美歌の意味と機能 「賛美歌21」の諸問題」『日本教会音楽研究会 2001  
クリスチャン新聞『クリスチャン情報ブック2004』いのちのことば社ジャーナル出版事業部 2003

- 「『讃美歌21』について各学校はどのように 加盟の小学・中学・高校と短大・大学にアンケートを  
『キリスト教学校教育』1998年12月15日
- 三瓶長寿「二十世紀の礼拝改革と『讃美歌21』」『福音と世界』1997年6月号 pp.8-13
- 白井健策『讃美歌への招待 音楽随想』日本基督教団出版局 1999
- 『聖書』日本聖書教会 1968
- 手代木俊一『讃美歌・聖歌と日本の近代』音楽之友社 1999
- 戸田義雄・永藤武編著者『日本人と讃美歌』桜風社 1978
- 中村信一郎「戦争責任告白としての『讃美歌21』」『福音と世界』1997年6月号 pp.33 - 39
- 日本基督教団教育委員会編『こどもさんびか』日本基督教団出版部 1953
- 日本基督教団讃美歌委員会編『讃美歌・讃美歌第二編』日本基督教団出版局 1971
- 日本基督教団讃美歌委員会編『讃美歌21』日本基督教団出版局 1997
- 日本基督教団編『日本基督教団年鑑 2005』日本基督教団出版局 2005
- 原恵『賛美歌 その歴史と背景』日本基督教団出版局 1980
- 松山與志雄「現行『讃美歌』の補足として試用する」『福音と世界』1997年6月号 pp.14-18
- 松山與志雄「『讃美歌21』の再検討1」『福音と世界』1999年4月号 pp.41-48
- 松山與志雄「『讃美歌21』の再検討2」『福音と世界』1999年6月号 pp.54 - 59